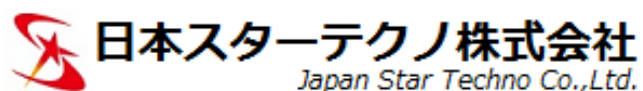


RS-232C 通信 データロギングツール

## ***ES-Logger Lite***

取扱説明書



E-mail: [support@j-startechno.com](mailto:support@j-startechno.com)  
<http://www.j-startechno.com>

## はじめに

このアプリケーションツール「ES-Logger Lite」は RS-232C 通信により指示計から表示データをロギングするツールです。ロギングしたデータは CSV 形式で保存しますので、Microsoft Excel などでのデータの編集が行えます。

対応 OS : Windows 8.1, Windows 7, Windows Vista SP1 以降, Windows XP SP3

## 目次

1. インストール .....	2
2. アンインストール .....	3
3. 接続 .....	4
3.1. パソコンのシリアルポート(D サブ 9 ピン)を使用する場合 .....	4
3.2. パソコンの USB ポートを使用する場合 (シリアルポートが無い場合) .....	4
4. 画面 .....	5
4.1. モニタ表示 .....	5
4.2. モニタリング設定 .....	6
4.1. ボタン .....	7
5. メニュー .....	8
5.1. ファイル .....	8
5.2. ポート設定 .....	8
5.2.1. COM ポート .....	8
5.2.2. ボーレート .....	9
5.2.3. データビット .....	9
5.2.4. パリティ .....	9
5.2.5. ストップビット .....	9
5.3. ログ設定 .....	10
5.3.1. 保存先 .....	11
5.3.2. データログタイミング .....	11
5.3.3. グラフ描画タイミング .....	12
5.3.4. 保存方法 .....	12
5.3.5. 記録時間の書き出し .....	13
5.3.6. 同一ファイルへの書き出し .....	13
6. グラフ表示 .....	14

## 1. インストール

本ソフトウェアは Microsoft .Net Framework 4 が必要となります。インストールされていない場合は以下のサイトよりインストールしてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 4 Client Profile

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17113>

- ・ Microsoft .NET Framework 4 Client Profile 日本語 Language Pack (x86)

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17941>

- ① 「LoggerLite」 -> 「LoggerLite」 フォルダ内にある「setup.exe」を実行してください。  
実行後は表示されるダイアログの指示に従ってインストールを進めてください。

※ 「ユーザーアカウント制御」のダイアログが表示された場合は[はい]を押してください。

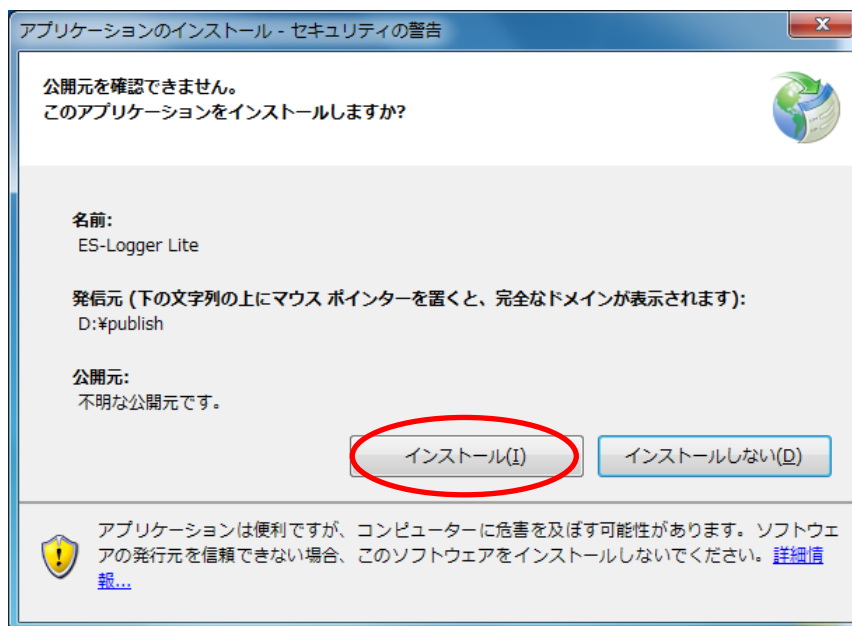


図 1

- ② インストール終了後、ES-Logger Lite が起動します。



図 2

## 2. アンインストール

- ①「スタート」>「コントロールパネル」>「プログラムと機能」をクリックします。
- ②プログラムの一覧から「ES-Logger Lite」を選択し、「アンインストールと変更」をクリックします。

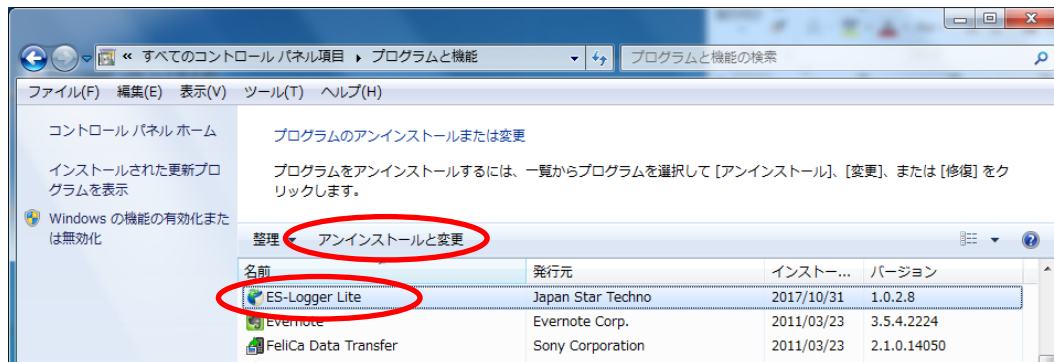


図 3

- ③「このコンピュータからアプリケーションを削除します。」を選択し、「OK」を押します。

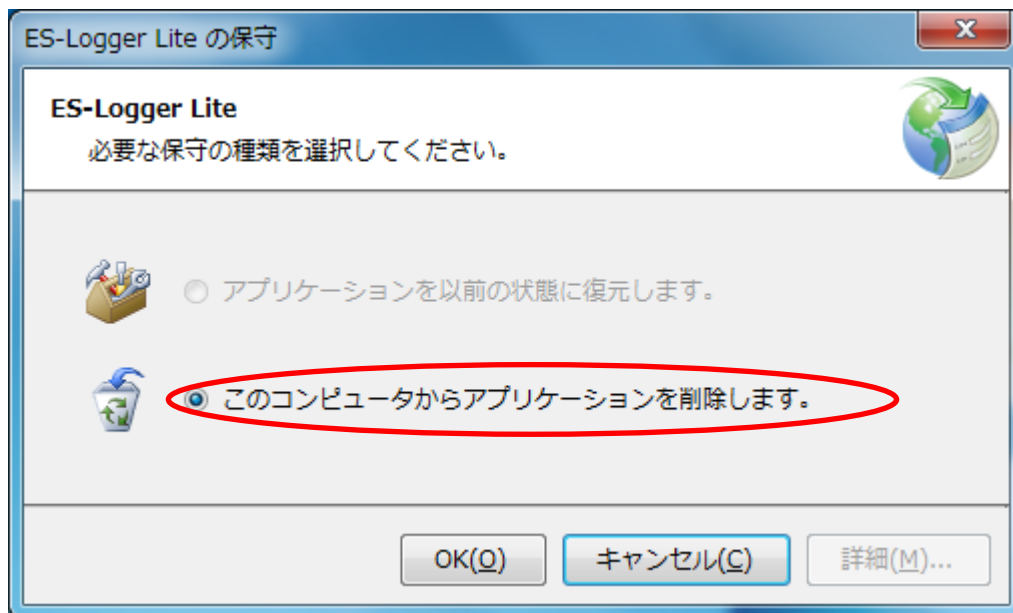


図 4

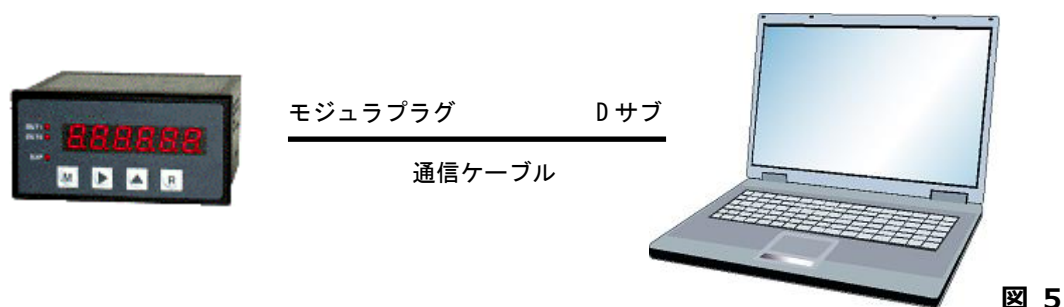
- ④アンインストールが実行されます。

### 3. 接続

指示計とパソコンとを接続します。接続には専用通信ケーブルが必要となります。

#### 3.1. パソコンのシリアルポート(D サブ 9 ピン)を使用する場合

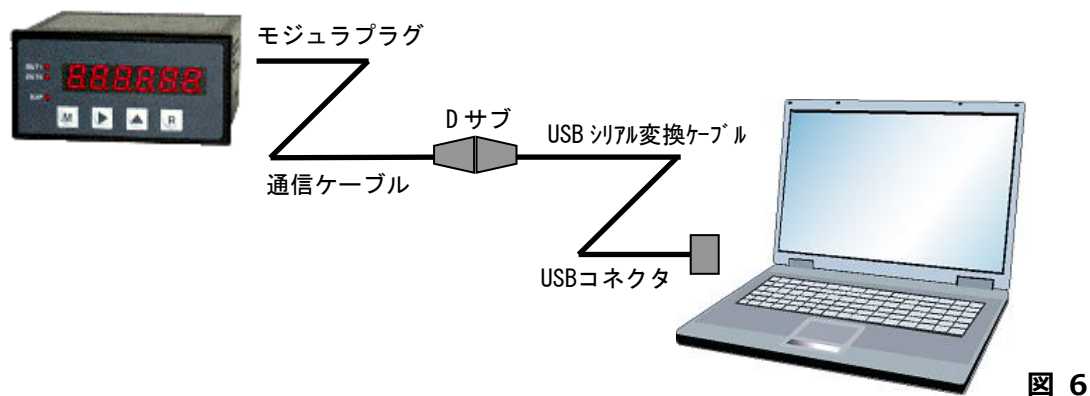
通信ケーブルのモジュラプラグを指示計へ、D サブをパソコンのシリアルポートに接続します。



#### 3.2. パソコンの USB ポートを使用する場合（シリアルポートが無い場合）

市販の USB シリアル変換ケーブルを使用します。

- ①通信ケーブルの D サブと USB シリアル変換ケーブルの D サブを接続します。
- ②通信ケーブルのモジュラプラグを指示計へ、USB シリアル変換ケーブルの USB コネクタをパソコンの USB ポートに接続します。



#### <注意>

USB シリアル変換ケーブルを使用する場合は、ドライバのインストールが必要となります。  
お使いの USB シリアル変換ケーブルの取扱説明書をご参照ください。

※通信ケーブル、および USB シリアル変換ケーブルにつきましては弊社で取り扱いしておりますので必要な場合はお問い合わせください。

## 4. 画面

### <起動画面>



図 7

### 4.1. モニタ表示

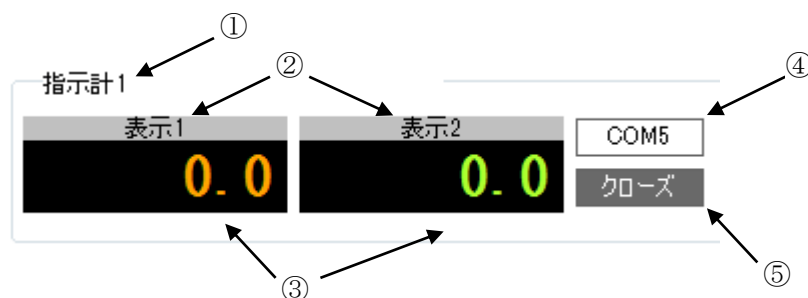


図 8

①指示計名を表示します。任意に変更が可能です。

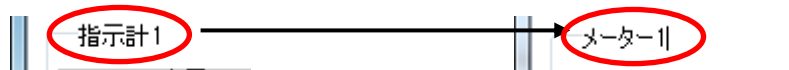


図 9

②表示名を表示します。任意に変更が可能です。

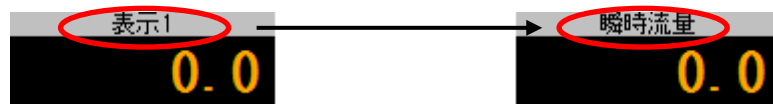


図 10

③指示計から取得したデータを表示します。

④指示計と接続している COM ポート名を表示します。

⑤現在の通信ステータスを表示します。切断時は「クローズ」、モニタリング中は「通信中」と表示されます。

### <通信ステータス>



図 11

## 4.2. モニタリング設定



計測時間  min ☐ リクエスト応答(ENQ)

取得間隔  ms ☒ データログ有効

☐ 指示計1と同期

図 12

### <計測時間>

「リクエスト応答(ENQ)」チェック時に有効です。(指示計の設定が「リクエスト応答(ENQ 受信)」時) 指示計からデータを取得する時間を指定します。単位は分です。ここで指定した時間だけ、指示計よりデータを取得します。0 分と設定した場合は「停止」をクリックするまでデータ取得を行います。設定範囲は 0～1440 です。直接数値入力も可能です。

### <取得時間>

「リクエスト応答(ENQ)」チェック時に有効です。(指示計の設定が「リクエスト応答(ENQ 受信)」時) 指示計からのデータ取得周期を指定します。単位はミリ秒です。ここで指定した時間間隔で指示計よりデータを取得します。設定範囲は 200～60000 です。直接数値入力も可能です。

### <リクエスト応答(ENQ)>

指示計のモード 70-F「送信方式」の設定に合わせてください。

モード 70-F	リクエスト応答(ENQ)チェックボックス
0：一定周期送信	チェックなし
1：リクエスト応答(ENQ 受信)	チェックあり

### <データログ有効>

データの記録を取るか取らないかを指定します。チェック時は記録を行い、未チェック時は記録を行いません。記録方法は P.10「**5.3.ログ設定**」を参照してください。

### <指示計-1 と同期>

「リクエスト応答(ENQ)」チェック時に有効です。(指示計の設定が「リクエスト応答(ENQ 受信)」時) 指示計-2 のみの設定です。指示計-1 の「オープン/開始」で同期してデータの取得を行います。計測時間、取得時間は指示計-1 と同じになります。

### <注意>

- ⇒USB シリアル変換ケーブルをご使用の場合は、**パソコン本体の USB コネクタをご使用ください。**USB ハブを介しての複数接続は USB ハブの相性により動作が不安定になり、通信できない場合があります。
- ⇒指示計の設定が一定周期送信の場合、「オープン/開始」に関らず指示計からパソコンへ一定周期でデータが送信され続けます。複数接続時は複数の指示計からデータが送信され続けるため、パソコンが予期しないシャットダウンを起こす恐れがあります。**複数接続の場合は指示計の設定を「リクエスト応答(ENQ 受信)」に設定し、「リクエスト応答(ENQ)」でご使用ください。**

## 4.1. ボタン

### <オープン/開始ボタン>

通信（COM）ポートを開き、通信を開始します。通信が開始されるとステータス表示が「通信中」となり、ボタンの表記は「停止/クローズ」と変わります。



図 13

### <停止/クローズボタン>

指示計との通信を停止し、通信（COM）ポートを閉じます。通信が停止されポートが閉じられるとステータス表示が「クローズ」となり、ボタンの表記は「オープン/開始」と変わります。



図 14



## 5. メニュー

### 5.1. ファイル

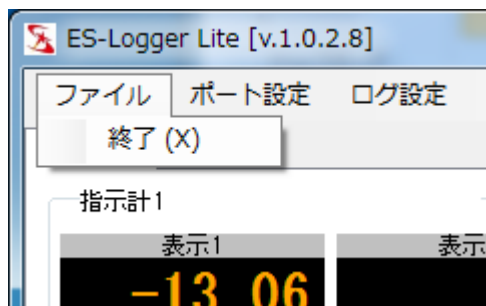


図 15

#### [終了]

Logger Lite を終了します。

### 5.2. ポート設定

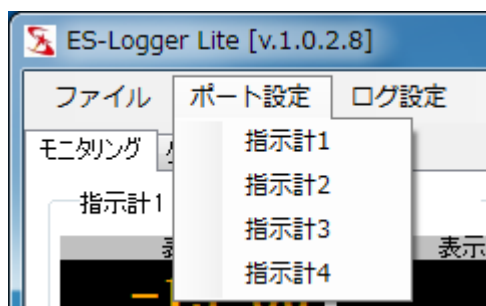


図 16

各指示計に接続するポートの設定を行います。指示計名をクリックするとポート設定ウィンドウが表示されます。設定は各接続先の指示計と合わせてください。

#### 5.2.1. COM ポート

接続する COM ポート（通信ポート）を指定します。COM ポートが存在しない場合は、「Port not found」と表示されます。

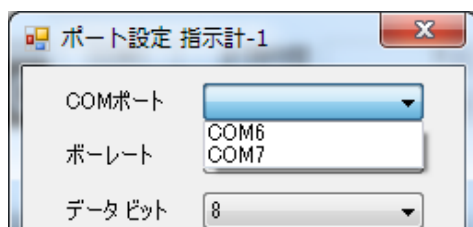


図 17

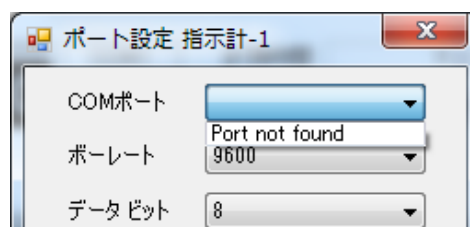


図 18

※ポートが存在しない場合は1度アプリケーションを終了し、ポート接続後、再起動してください。

### 5.2.2. ボーレート

通信速度を指定します。初期設定は「9600」です。接続先の指示計と同じとしてください。

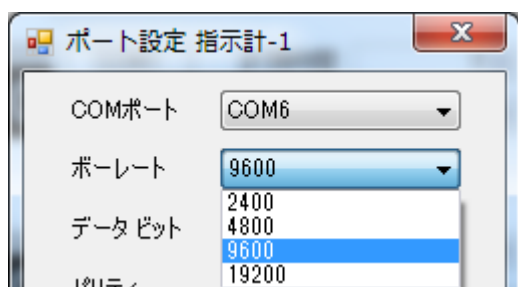


図 19

### 5.2.3. データビット

データビットを指定します。初期設定は「8」です。接続先の指示計と同じとしてください。

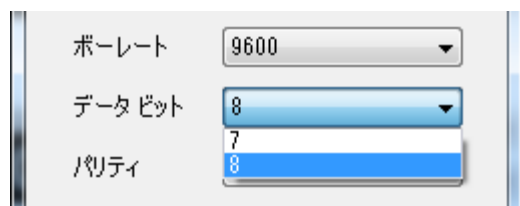


図 20

### 5.2.4. パリティ

パリティビットを指定します。初期設定は「なし」です。接続先の指示計と同じとしてください。

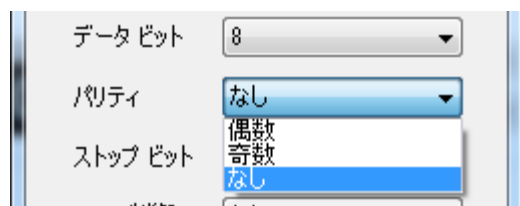


図 21

### 5.2.5. ストップビット

ストップビットを指定します。初期設定は「1」です。接続先の指示計と同じとしてください。

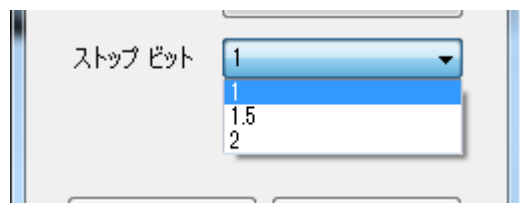


図 22

### 5.3. ログ設定

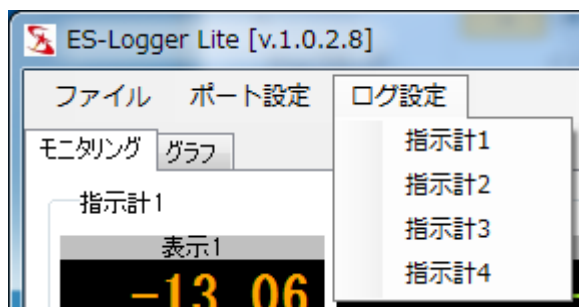


図 23

各指示計から取得したデータをロギングする設定を行います。指示計名をクリックするとログ設定ウィンドウが表示されます。

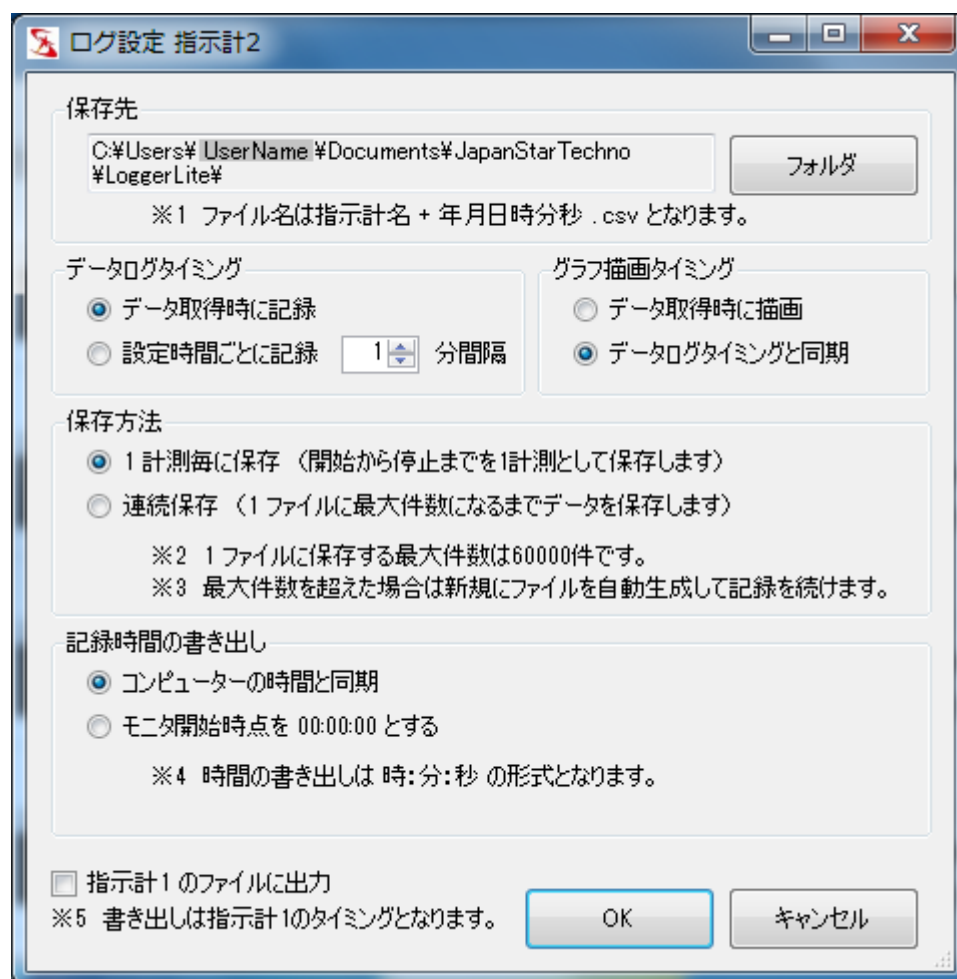


図 24

### 5.3.1. 保存先

ログデータの保存先フォルダを指定します。「フォルダ」をクリックして指定してください。初期設定は My Documents 内に¥JapanStarTechno¥ LoggerLite¥というフォルダを作成し、そこに保存するようになっています。



図 25

保存ファイル名は指示計名にファイルを作成した日時を付加した名前となります。  
指示計名 + "\_" + 年 4 桁 + 月 2 桁 + 日 2 桁 + 時 2 桁 + 分 2 桁 + 秒 2 桁.csv  
<例> 指示計 2\_20170216091030.csv

### 5.3.2. データログタイミング

データ記録のタイミングを設定を行います。

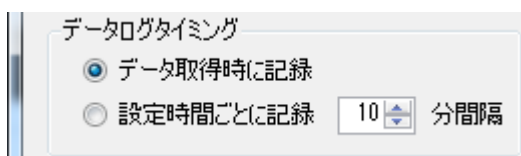


図 26

#### <データ取得時に記録>

指示計からデータを受信するたびにデータをファイルに記録します。

#### <設定時間ごとに記録>

任意に設定した時間(分)ごとにその時のデータをファイルに記録します。100ms 単位で指示計と交信し、記録間隔が 10 分とすると 10 分間隔でその時のデータを記録します。

	A	B	C	D	E
1	No	日付	時間	指示計1 表示1	指示計1 表示2
2	1	2015/9/11	12:48:04	4	5
3	2	2015/9/11	12:58:04	603	604
4	3	2015/9/11	13:08:04	1203	1204
5	4	2015/9/11	13:18:03	1803	1804
6	5	2015/9/11	13:28:03	2403	2404
7	6	2015/9/11	13:38:04	3003	3004
8					

図 27

### 5.3.3. グラフ描画タイミング

グラフ描画のタイミングを設定します。

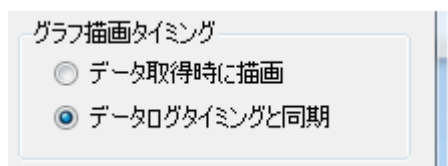


図 28

#### <データ取得時に描画>

指示計からデータを受信するたびにデータをグラフに描画します。

#### <データログタイミングと同期>

データをファイルに記録するタイミングでその時のデータをグラフに描画します。

(データログタイミングの設定でグラフ描画します。)

### 5.3.4. 保存方法

保存方法を指定します。

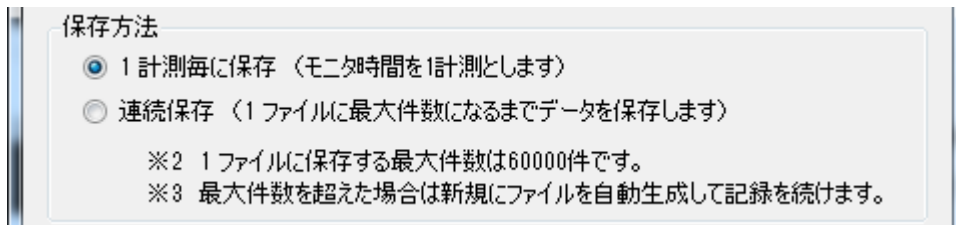


図 29

#### <1 計測毎に保存>

メイン画面で設定した計測時間を 1 計測として保存します。計測開始のたびにファイルを作成します。

#### <連続保存>

メイン画面で設定した計測時間に関係なく、同じファイルに連続してデータを記録します。

#### <注意>

1 ファイルの保存する最大件数は 60000 件です。60000 件を超えた場合は同ファイル名でファイル名末尾に-2,-3 と連番をつけたファイルを作成し、記録を続けます。

### 5.3.5. 記録時間の書き出し

ファイルにデータを記録するときの時間の記録方法を指定します。

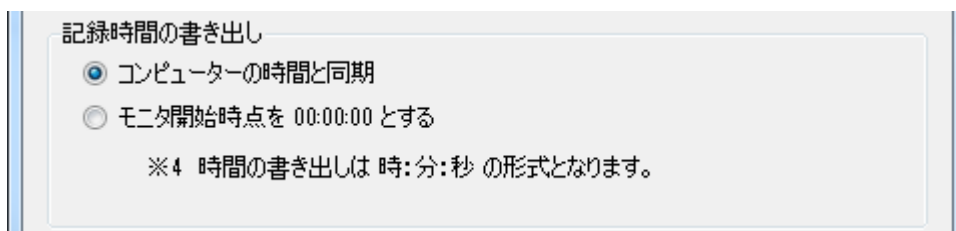


図 30

#### <コンピューターの時間と同期>

記録する時点のパソコンの日時を書き出しします。

#### <モニタ開始時点を 00:00:00 とする>

メイン画面で「開始」をクリックした時点を 00:00:00 とし、記録する時点の経過時間を書き出しします。

時間の書き出しフォーマットは 00:00:00（時:分:秒）となります。

### 5.3.6. 同一ファイルへの書き出し

指示計-2 のみの機能です。データの記録を指示計-1 のファイルに書き出しします。記録のタイミングは指示計-1 の書き出しタイミングとなります。



図 31

#### <書き出しデータ> Excel で表示

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	No	日付	時間	指示計1 表示1	指示計1 表示2				
2	1	2013/12/18	11:10:16	900.00	0.00				
3	2	2013/12/18	11:10:16	900.00	0.00				
4	3	2013/12/18	11:10:16	900.00	0.00				
5	4	2013/12/18	11:10:16	900.00	0.00				
6	5	2013/12/18	11:10:17	900.00	0.00				
7	6	2013/12/18	11:10:17	900.00	0.00				
8	7	2013/12/18	11:10:17	900.00	0.00				
9	8	2013/12/18	11:10:17	900.00	0.00				
10	9	2013/12/18	11:10:17	900.00	0.00				
11	10	2013/12/18	11:10:18	900.00	0.00				
12	11	2013/12/18	11:10:18	900.00	0.00				

図 32

## 6. グラフ表示

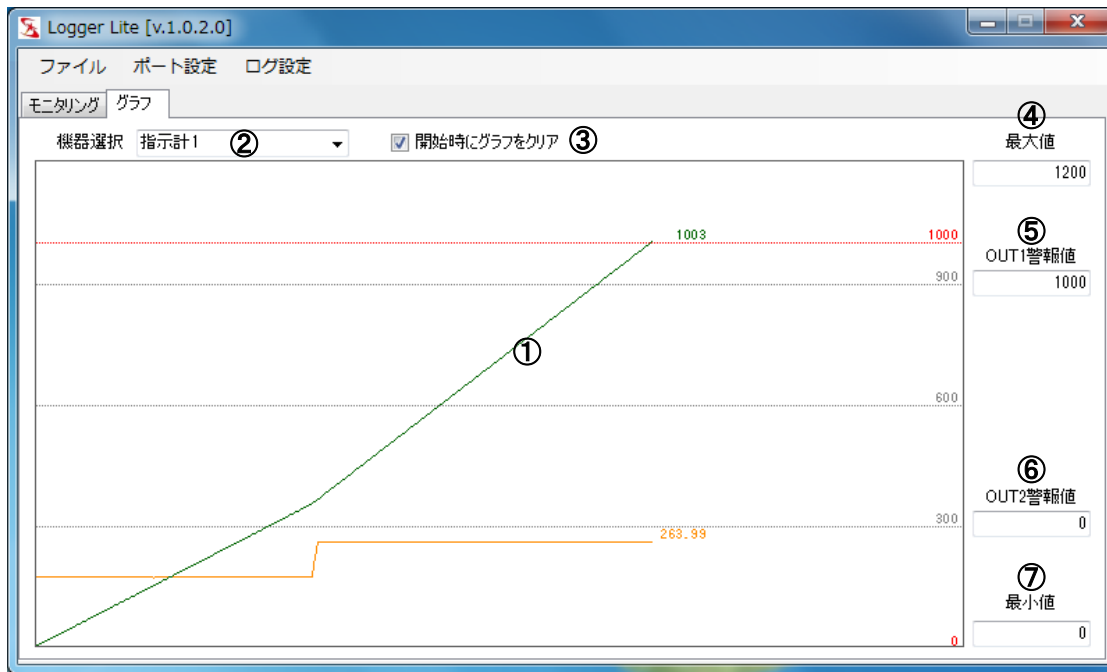


図 33

### ①グラフ描画領域

指示計から受信したデータをグラフ表示します。左側が古いデータで右側が新しいデータとなります。表示 1 は橙線、表示 2 は緑線で描画します。

### ②指示計切り換え

グラフに表示する指示計を切り替えます。

### ③グラフ描画開始処理

モニタリング画面の[オープン/開始]ボタンでモニタリングを開始するたびにグラフを消去するかしないかを選びます。チェックしない場合は前データの続きより連続でグラフを描き続けます。

### ④グラフ y 軸最大値

グラフ描画領域の y 軸の最大値を入力します。Enter キー押下後に反映されます。

### ⑤指示計 OUT1 コンパレータ値 (モード 43)

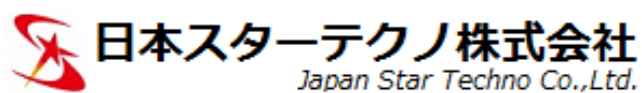
OUT1 警報値を設定します。Enter キー押下後に反映されます。反映後、赤線で表示されます。  
(※指示計からの読み込みは行いませんので手動で設定してください。)

### ⑥指示計 OUT2 コンパレータ値 (モード 42)

OUT2 警報値を設定します。Enter キー押下後に反映されます。反映後、赤線で表示されます。  
(※指示計からの読み込みは行いませんので手動で設定してください。)

### ⑦グラフ y 軸最小値

グラフ描画領域の y 軸の最小値を入力します。Enter キー押下後に反映されます。



E-mail: [support@j-startechno.com](mailto:support@j-startechno.com)  
<http://www.j-startechno.com>

※改良のため、仕様等は予告無くの変更する場合がありますので予めご了承ください。

---

〈東京本社〉  
〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-11  
廣瀬ビル3F  
TEL. 03-6432-4006 FAX. 03-6432-4010

〈大阪営業所〉  
〒542-0072 大阪府大阪市中央区高津1-9-10  
サムティインテリジェンスビル407  
TEL. 06-6777-5257 FAX. 06-6763-5258

---